

葛谷栄一の 異見私見



また新しい年を迎えた。過ぎる2013年、あらゆる領域がアベノミクス一色に染め上げられてきた、という感を強める。TPP交渉に参加し、年内合意には至らなかったものの、早期決着を目指す姿勢は鮮明であった。またTPPとの関連はないとしながらの農政改革が唐突に打ち出され、『現場の玉』をみがき、活力ある農林水産業の実現を目指して」とのタイトルがつけられた。攻めの農林水産業が打ち出された。

新自由主義的発想が蔓延して、表面には華やかさを増し加えているものの、歯車は逆回転して格差拡大と活力低下が続いている。都心での高層ビルの建設ラッシュはますますまじく、景観は日々変容する。一方で、既存のビ

ルでは空きスペースが増加して、家賃の下落は著しく、地下商店街で閑古鳥が鳴いているところも少なくない。銀座は相当部分が海外

は激しく、しかも寿命は短くなる一方で、ストックの形成がはかられているようにも見える。まして国民生活とはかけ離れた

ところで毎年、子供たちの田舎体験教室で田植え、稲刈りの場を提供してくれているH氏が語ってくれた話である。「金があるから失

って苦しんでいる。」H氏は84歳で、いくつもの事業を手掛け、成功と失敗を繰り返してきたそうだが、60歳をすぎて「物事は反対に見てこそ見える」とこ

に気づかされたという。H氏のもとには近隣だけでなく遠くからも幾人ものお年寄りが集まって、引き受け手になくなった水田を協同して耕作しており、その一部を子供たちの田

植え等の体験の場でもしている。また手入れができずにいる山の木の伐採等によって原木を調達して炭焼きを続けている。自らが経営している温泉旅館で使用する薪はすべて炭を燃やして暗してお

たことではないそうだ。この温泉旅館だけで老若男女、13人もの雇用を実現しているが、「従業員に教えたことにはない。従業員は社長に苦

有名ブランドの店に置き換わってしまっている間に老舗の多くは姿を消して、欧米化した商店街へと変貌しつつある。スクラップ&ビルド

とてこのGDP増加にすぎず、生き延びるは算のほかり。こうした構図があらゆる領域に浸透し、農業の世界をも席卷しようとしている。

敗するのさ。金がなくなったら失敗することはない。「欲や煩悩は神様が人間だけに与えたもの。動物には欲も煩悩もない。人間は欲にとらわれ、豊かにな

るべきではないように思う。全部自ら考えて工夫し行動して育っていく。会社は道場みたいなものさ」といっ

まことに何もなげまの試みであり、再生である。先般、岩手県で講演した折、ある集落のリーダーが私のもとに来て言った。「葛谷さん、自給が大事であることをもっと強調してほしい。」

今、求められるもの

こそがこの感覚ではないか。所得の確保・向上は欠かせないが、目の先の農政に振り回されることなく、補助金依存から脱皮していくことも、地域資源を活かして極力手作りし自給度を向上させていく。まさに自立で自給の姿勢があつてこそ浮かぶ瀬もある時代なのである。
(農的社会デザイン研究所代表)